

新編水滸畫傳

六編

九



阿彌陀佛
875
59
卷

新編水滸畫傳卷之五十九

東武 高井蘭山翁

譯編

明治三十二年
十月十日
購本

○柴進花と簪して禁院小入

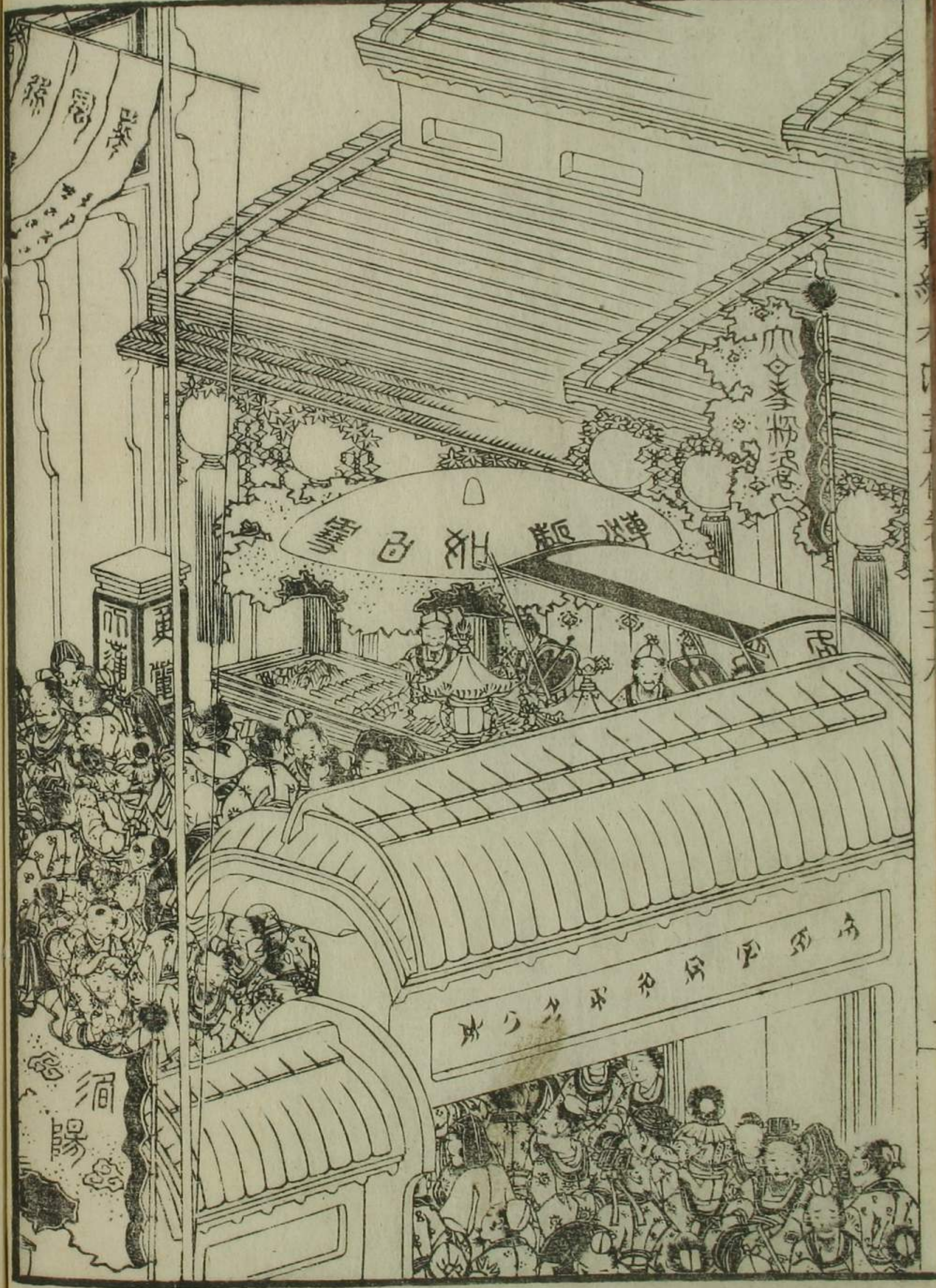
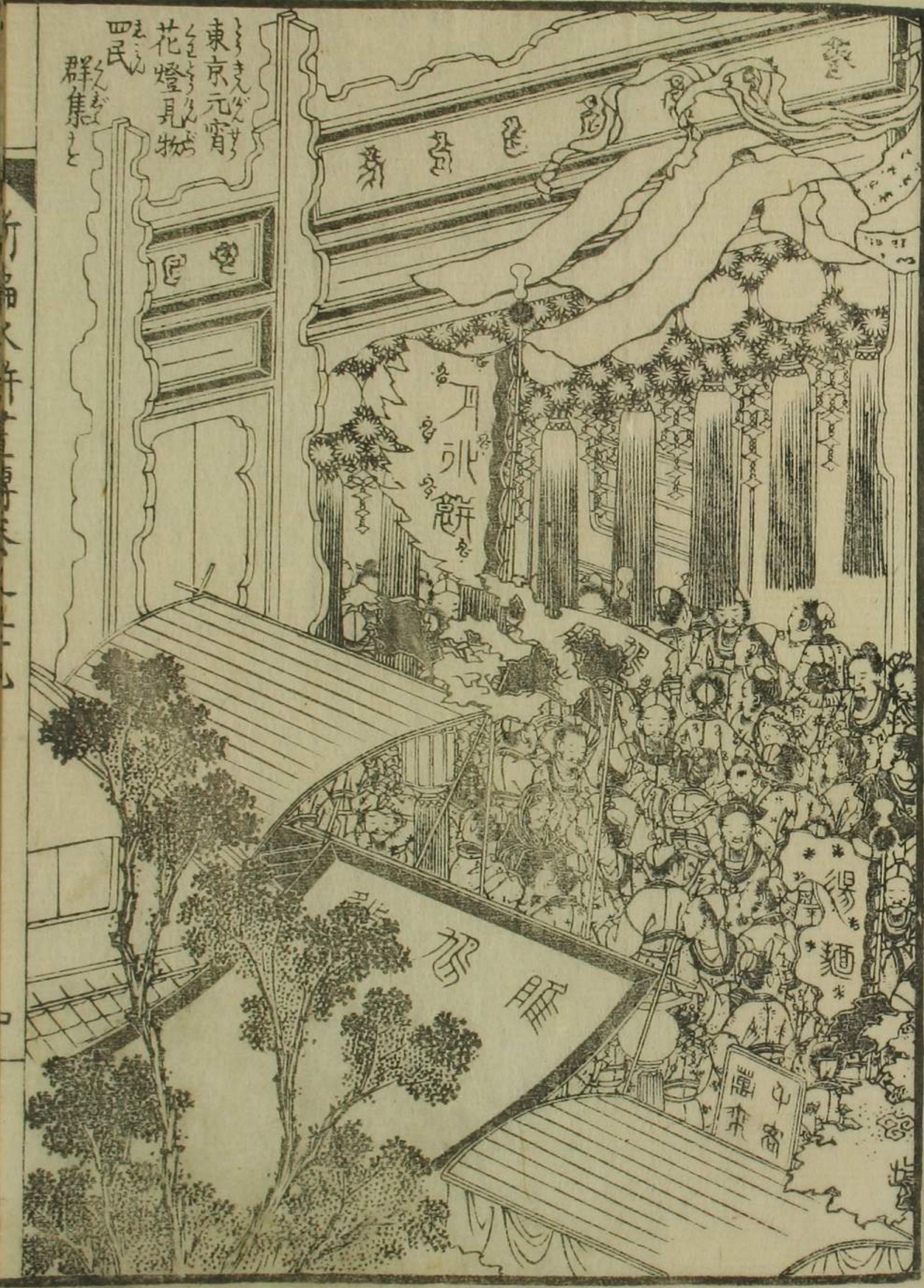
宋の柴進は上系少つと同往の人々も相定りし處に黒旋風ありて進
出て云々々々東系の花魁も是と親はく欲は宋の云々々々人ぞ
と能伴らん汝の只諸路の共は山陣小苗つて堅く守り在べしと
再三おとを命じられども李逵頻り不行んことを強ひたりと苗
色あがりしを宋の汝とて汝は云々々々と云汝は汝の人とありば必
事と惹出すべしは燕青も又李逵に伴つて同行せよと命じ
此日先史進穆弘と孫人の形小出させ山陣とせし魯智深武
行者と行脚の傍小出させ山陣とせし又朱仝劉唐と商人の形

新編水滸畫傳卷之五十九

出ませ山陣とゆせ各身辺の軍器を持しむ。叔宋の柴進の官人の形ふ
出ま。又戴宗と兼局の形ちの出ませ。是と伴人等一車出ませ山陣ふ
出ま。とせん為あり。李逵燕青の家人の形めてる。行李と擔げ。宋の
あまぐひ山陣とりの。法政の形ち金沙灘はど送つ。宋の別。兵用
再三李逵ふ命。汝が山とりの。毎に禍と惹出。けは。宋君
伴ふ。あれ。帝の時と同じ。中。の。酒。と。用。ゆ。心。ざ。こ。い
あ。一。點。の。得。あ。る。百。八。人。の。内。と。除。べ。李。逵。が。云。軍。師。毛。乃。も
あ。く。ま。ふ。べ。う。我。自。ら。信。で。禍。と。避。べ。何。ぞ。あ。る。宋。君。と。別。さ。く
あ。ん。や。と。く。通。ふ。宋。の。あ。ま。ぐ。く。金。沙。灘。と。難。れ。ま。ち。の。東。と。そ。ん。く
あ。ま。ぐ。く。後。ふ。不。白。ふ。宋。の。界。あ。り。城。の。南。門。の。外。に。宿。と。求。め
歌。く。る。此。時。正。月。十。一。日。あ。り。宋。に。晴。ふ。宋。と。高。張。し。て。云。明。日。白。登

小城に入らん。とハ不可。ある。十四日の。晩。人の。鬧。熱。ある。に
終。は。城。内。小。忍。び。入。らん。宋。と。云。宋。の。明。日。燕。青。と。引。て。城。中。小。入。り。あ
動。静。と。窺。つ。く。あ。ま。ぐ。く。宋。に。別。て。そ。の。日。ト。な。れ。ば。翌。日。柴。進。錦。の
衣。と。着。し。花。の。粧。ひ。燕。青。も。粧。束。と。改。し。あ。ま。人。遂。に。宿。と。出。て
城。門。と。開。れ。來。り。先。城。外。の。村。邑。と。入。る。小。門。々。戸。々。若。干。の。燒。餘。炭
柴。没。元。宵。と。慶。ま。る。用。と。佃。へ。た。れ。ば。城。中。の。僧。と。料。ら。れ。り。
柴。進。燕。青。已。に。城。内。小。入。り。御。街。と。盤。桓。し。ま。ち。に。勝。つ。て。胡。廷。の。赤。泥
門。の。外。に。あ。り。う。る。ふ。け。外。中。熱。鬧。新。小。設。け。く。茶。坊。酒。肆。を。料。を。乞。う
は。遊。行。と。あ。り。士。農。工。商。の。終。く。終。く。と。あ。り。小。聯。を。り。茶。坊。の。発。酒。店。は
閣。小。酒。を。め。と。め。息。を。歇。る。人。の。入。り。引。も。取。ら。ず。夥。し。柴。と。も
燕。青。と。共。小。酒。の。樓。上。り。欄。干。小。危。れ。樓。下。と。そ。の。人。の。正。く

東京元宵
花燈見物
群集



ある時へ即朝廷へ入る注をす凡は軍を死と捕らる者へ禁中へ
 出入何れも許さる印あり。榮進が云我のまがけはとを知ら
 ざりしとて再び盃を執て再こまぬまの幼れ酒又影巡ふ及び榮進と又
 酒と熱くして拿來るべきとて燕まに命に燕まの好く一壺の熱酒成
 拿來る。榮進と大盃ふ醜く加直に送る。榮進は酒と親交り
 献じ奉る。那の飲まふあまを乾く。後榮進が姓名と報をせん。班直
 盃とあま云ふまがけ足下のことを思ひ甚だ怒る。大名と報する人
 とて遂に盃と傾けけ酒と乾く。身狎癡て口中涎と流し。
 翻顛して地上に倒さる。是則酒中の毒薬と加へる。あまありは榮進
 進班直がまらる。後衣花中と別あま己が才にこれとま。則燕ま
 小命は酒保あつとと扱あつとと回へ。女直し返る。小及ふべし

とて燕青と樓上のあま自ら樓とり東花門の内へ入暗にんと止
 め。禁中の光景とらる。金銀琉璃瑪瑙珊瑚とび。御門御殿より
 遠く一方一面は清光輝目と厭し。あまを驚かし。あまは後あつと
 いうて。まらふまらふ。あまを救ふ。禁門と経られ。後衣花中とま
 して。あまはあま。あまはあま。あまはあま。あまはあま。あまはあま。
 環を用いて園へ入れ。あまはあま。あまはあま。あまはあま。あまはあま。
 此の偏殿の辺にあり。御額とらる。あまはあま。あまはあま。あまはあま。
 此殿は帝御執事の所あり。案と窓は内小忍び入て殿中をみる。あまは
 西面六御座を設けた。右あま堆く群書とを。あまはあま。あまはあま。
 あまはあま。あまはあま。あまはあま。あまはあま。あまはあま。
 の背あへ屏風とめ。あまはあま。あまはあま。あまはあま。あまはあま。
 屏風のとあま。あまはあま。あまはあま。あまはあま。あまはあま。
 御筆とまへて天下に大紙

新編水滸畫傳卷之五十九

の姓名と書せ給ひぬ

山東宋江 淮西王慶 河北田虎 河南方臘

宋江と云はては大城の姓と見えぬと見ゆ。我れもがゆへに國家と記され。天子も
小名と處を尋ね掛りしゆ人。比人の姓名と記させしゆ。小疑ひあり。我れ今
宋江の姓を尋ね除んとす。身辺に掛る人。軍兵と取出し。山東
宋江と云はてはと截去。高院殿中に出し。再び東華門と云。竟し酒
樓小回し。彼王親堂と云。毒丸を勝り。未だ碑記は宋進
彼時衣花巾と脱ぎ。王親堂が抱え。高院酒造と償うて。酒保に
命し。うろへ。王親堂は我れが同僚の人あり。我れ先禁中へ入て。お
来らん。彼酒の酔醒く。我れ車と問は。汝真しく此と云。問せよ。
我れ酒を飲せんとす。白銀二兩と取して。お給て。燕青も小酒を

再び再び万寿門の外に宿へて。酒を飲り。王親堂は我れを尋ね。我れ
毒酒の碑記を別ち。酒保と呼て。宋進が行向と問え。れば。酒保は
が言と。一傳へる。王親堂は。偏ふ。我れを尋ね。我れ
は。酒衣花巾を取て。再び。遂に私宅へゆり。翌日朝
中朝外。お給り。沙汰を。云々。何者の所為。や。睿思殿の屏
風のよ。小脚筆。書て。書せ。ひぬ。天下に大城の姓。の内。山東宋
江と云は。て。截去。今日より。緊。御門と。取。入
か。法人。一。裁。直。風。頻。あり。王親堂は。我
同。晴。思。ひ。人。我。酒。醉。て。外。時。我。我
衣。花。巾。自。ら。脱。て。枕。辺。小。有。る。人。我。あ。れ。と。疑。ひ。し。ゆ。も。我
い。ま。解。り。し。ゆ。に。相。明。日。の。者。人。を。証。し。て。酒。保。我

錦衣花中と云く禁中に錦を入。山東宋江と云はふと武去
て捨つるに疑ひあり。彼必定梁山泊の強盗あてどあるべき人
や。沙汰せられせんふいとて自らあれとん甲ふ収め。ほく情んで
云ざりたり。

○李達元夜ふ東京と聞がむ

去程ふ紫進へ燕青と引て宿宿ふゆ。禁中ふ錦を入く。山東宋江
と云はふと武去と云く。一と詳ふ告て。そと文字と宋江の呈く。松
宋江の事と見く。只管嘆息己ざりたり。既ふ十日の晩にありし
う。宋江の板東とありく。紫進ふ殺人と引て城内ふ入れたり。此時
宋江の事とある人。官人の形ちふ。如く。武宗の兼司の形ちふ。如く。燕
青の家人の形ちに出る。本達入宿宿ふ。行本と守りたり。

宋江は人城中と奔走して。御街と入り。千門戸おく。燈籠
棚と設け。種々の花燈と掛て。一連ふ火と懸。これば。白益
より。明らあり。まふ。樓臺の上。下。火。火。と。車馬此往
来。あ。人。人。と。看。東。系。の。繁。昌。何。と。以。ま。ふ。喻。人。や。宋。江。等
は。人。這。廂。那。廂。遊。り。て。前。面。と。さ。り。ま。ふ。の。ま。樓。を。く。僭。へ。て
ま。一。面。の。牌。と。掛。牌。の上。の。旗。舞。神。仙。の。女。風。流。花。月。魁。と。云。文。字
と。二。彩。ふ。書。別。ね。く。り。を。清。ふ。又。一。彩。の。小。茶。坊。有。り。れ。ば。宋。江。茶。坊
の内。ふ。を。入。て。登。ふ。坐。す。則。ま。の。問。て。云。さ。り。の。前。面。に。さ。り。の。法
青。樓。の。定。め。く。名。妓。多。う。う。人。を。ま。ふ。て。云。彼。ま。の。ま。樓。の。東。系。の
一。の。名。妓。ま。人。あり。一。座。の。李。師。々。が。青。樓。一。座。の。趙。え。奴。が。青。樓。あり。
折。は。李。師。々。趙。え。奴。と。ま。は。は。の。古。役。今。来。双。び。あ。を。美。人。あ。て。その。名

宋江が云我聞此事故が青樓の今上皇帝時々忍むせ
 むよと笑果してけてありやと云ふもあべまのと制して云貴客
 ぞと云々一まうとあつれ人あつてけと聞て思へん為あ
 かしん宋江と云と再び問む暗ふ燕とて呼で命にうら我今
 李師々の遇く事と云らんと欲も汝先李師々が家の死に直く
 ぞ尾と個へあるべ一燕命と云らと還ふ李師々が家小入て内式
 一碗の香炉と掛て光り明らうれ照しそと一脚の香卓
 と後て一個の香炉と云香炉の内小佳香籠都く燕も物りあの
 所ふ扱へれどもつまづ人あざりしう又天井の内小村く入るうかひ
 くるん此も又一所の客廳あり廳上あり後くの苑もと雕くる沈の小
 座と三脚設けそととら多餘の輝と後も前ふ金玉と建てて候うら

ひりや飛竜の籠籠とけけつらさほふもあぬ光るあり影るふ一人の小三
 板あつて燕も小問うらんそと客の何もようありまうど燕もが云我々
 只李老母不見えんと欲す汝入てけとと侍人久彼小三板云と影
 内小入李老母毎に影と告ぐれば李老母影くきりお別燕もと云て
 云々らんも客の何らのとあつてを問まうや燕青態勢ふきて
 云来りらとけけ返不位候しと張家と中者あり昔日幼年あり
 時々時々門のれ来つて戲と遊び多お老娘の老情と云うぬ老
 娘何ぞ我と云ととまうや老媽は言を聞て物々沈吟し忽ち打
 笑つて云昔日大平橋の辺小位しと強乙兒と云一人の一人の
 たしう張家とやらんやと男あつて毎度我家小あつて小三
 板とお戯れ我はく電も一折師ハ菓子あんどと云と云

新編水滸畫傳卷之五十九

が其後ふ不通ふんべり〜人我あはれと問せらるる何由人やらん。
張乙兒一家の眷属を携へ他郷へ引越せらるるあり。張乙兒の定めて
を竹の張童子より有べし。年々〜事なるも人我くやんま
れいひぬ燕青は云とせし〜計的小中り〜暗ふあは
と校び。李老母に對して又云く〜山東の瀆家より
親張乙兒も世とせし〜己ふ久〜。ある年ハ山東の瀆家より
流す〜上流〜り〜がは南家の世は双あはれ大馬〜人少て燕南
河小等の地ふ終てん。誰知る者もあ〜。は人今日上流〜ひ
ぬふ雨ぬの身一〜南家〜。え宵と一覽せんが為身二の
は処ふ許々の親族あると〜。は人〜何とぞ老娘を
あふぬ〜。一〜李師々ふま〜んが為あり。彼人千百友の根と

老娘の家小送らん〜あふ必家の家と日と同日〜あて〜ふ
〜あられ。彼老媽をれとせし〜平生の大欲んと動〜。哈々と打笑
て云ぬ〜。張公自らあ〜。上流〜急ぐ満ふあ〜んマ連
則ち李師々と呼〜。燕青に遇〜む。燕青は李師々と〜。流
石ハ系身一の名妓〜。沈魚屋の客閉月羞花の貌あり。佳香
忽ち衣襟ふ〜。燕に旅人と繋ふ。彼老媽は燕青が由來と〜。
李師々小〜。あ〜。李師々〜。則ち燕青が〜。問て云〜。
客ハ今何と〜。燕青は〜。云速〜。誘引あ〜。暫く歌は〜。
我消息と〜。燕青は〜。消息と〜。報〜。
宋江柴進戴宗一同小〜。燕青は〜。燕青は〜。燕青は〜。



新編入道正傳卷之五十一
宋江明們李獅々々青樓小豆

新編入道正傳卷之五十一

家に在る間他日まゝてありし人宋江が云果して今宵おに居候
 りば先ぬりて吳日孫やうんとて逆の別れを門外におはし人
 夢に天漢橋の辺におはつ。花燈と見物し。海樺大樓の前におはる
 に樓上小管絃の音頻りふして。遊興とあり去るを教と知りて
 宋江おはし人同じく焚樓の上にお登つて。曾て歌くおはるる所小九致電
 史進は遮欄穆弘先達ては下におあり。大小輝輝して孔言と云われ
 ば宋江おはし人何れおはしとて。曾て云汝おはし人何れおはしとて。曾て
 孔言と云われや。我汝らとて。曾て云汝おはし人何れおはしとて。曾て
 早速史進穆弘と引て夢に城門の外にお宋江又史進穆弘小對て
 云今宵先は宿おはし。明晩又花燈と見物し。汝らおはし人も意を宿
 宿おはしとて休むべしと命じ。宋江おはし人の夢に城門の外に宿に

ゆりし如小本達相迎へて云々。宋君おはし人の城中にお入て。花
 燈と見物し。只集つて宿お留つて寂寞に
 塩ふひぬ宋江が云汝常に綱と惹かれぬ。我汝と連なりしあり。
 夢にも明晩汝と引て花燈と見せし。夫より夢に梁山泊お
 ぬるべし。李逵呵々と打咲て。汝ら夜にお歌う。翌日は
 正月十五日。上元の夜ありし。東京の城中にお入。不周塾を過りて
 集りて街に元夜をば。夜宋江の柴進と同じ。官人の形におはし。宋
 本達。燈と引て。夢に城中にお入。此夜法門の軍士
 衣甲と着し。弓矢を帯び。敵のまゝにおあり。宋江自ら
 五千の兵を率いて。城中と巡見し。宋江おはし五人の頭領の群人の
 中に相難つ。遂に城内にお入。宋江又逸まら小針と投げて。李

新編水滸畫傳卷之五十九

師々が家にきつゝ。自らいほ宋と申と共ふ。又彼茶坊の内ふれり。専ら消息と待ふ。り。愚者己ふ。李師くが家ふ。あつゝ。李老媽則ち。愚者も。小對面して云々。昨日の帝不時の申入。り。彼家と云ふ。〜。田〜。糸〜。我ふ。まご。安ん。せ。ば。愚者。云。我。主。人。再。二。老。娘。の。好。意。と。感。じ。得。少。う。〜。〜。も。其。金。一。百。兩。あ。れ。成。送。り。ヤ。後。向。後。好。好。〜。〜。と。土。產。あ。〜。〜。〜。進。上。致。さん。〜。〜。先。彼。一。百。兩。の。金。子。と。取。出。〜。〜。李。老。媽。好。ふ。と。〜。李。老。媽。好。金。子。と。得。て。心。中。不。安。ど。怪。び。則。ち。附。〜。〜。云。々。〜。〜。の。被。害。誰。う。あ。〜。〜。人。か。〜。〜。の。び。〜。〜。懇。切。た。〜。〜。と。今。う。宵。も。定。め。〜。〜。花。燈。と。見。物。ふ。出。ま。ひ。ぬ。〜。〜。人。小。張。公。何。ゆ。家。家。小。誘。引。〜。〜。の。ぬ。ぞ。通。音。が。云。我。主。人。今。宵。も。己。ふ。は。思。ふ。ぬ。〜。〜。茶。面。の。茶。屋。の。内。小。ち。〜。〜。我。は。消。息。と。待。居。ま。〜。〜。老。媽。が。い。〜。〜。今。う。宵。も。

上。え。の。佳。節。あ。〜。〜。我。今。如。子。と。共。に。一。盞。と。酌。ん。と。飲。む。張。公。も。家。と。棄。た。〜。〜。と。ん。彼。家。を。同。伴。〜。〜。我。家。に。あ。〜。〜。又。愚。者。は。言。を。せ。て。再。び。茶。坊。ふ。ぬ。〜。〜。送。に。宋。江。未。巳。人。と。誘。引。〜。〜。李。師。く。が。門。前。ふ。ぬ。〜。〜。一。処。に。戴。宗。本。李。達。と。人。の。別。ち。は。不。ふ。待。せ。宋。江。茶。を。愚。者。之。人。の。内。ふ。入。客。廳。に。あ。〜。〜。う。〜。〜。李。師。く。お。迎。之。附。〜。〜。う。〜。〜。官。人。い。〜。〜。ぞ。ゆ。〜。〜。の。相。見。な。〜。〜。の。許。多。の。れ。也。と。送。り。〜。〜。や。宋。江。が。云。我。は。少。の。認。〜。〜。れ。土。產。も。あ。〜。〜。の。人。狂。少。あ。〜。〜。賀。義。と。送。り。〜。〜。何。ぞ。是。と。附。〜。〜。〜。や。本。師。〜。〜。好。〜。〜。酒。を。受。け。〜。〜。め。宋。江。茶。を。と。款。待。酒。己。に。教。巡。不。〜。〜。て。本。師。〜。〜。只。管。風。流。の。周。旋。を。傳。〜。〜。〜。〜。宋。江。の。梁。山。泊。の。豪。氣。を。歌。〜。〜。〜。〜。言。更。に。お。愛。せ。〜。〜。〜。〜。宋。江。と。打。笑。〜。〜。云。も。兄。弟。の。酒。を。碎。〜。〜。〜。〜。な。〜。〜。豪。傑。の。氣。像。歌。を。御。も。風。流。あ。〜。〜。〜。〜。本。師。く。

ありと聞はどく打笑ひ。多分ふたて風流の終活ハ常のしつふに不極て
 路々々々かゞの豪傑の何とて甚ど珍々々々なれと云も終々々々一人
 の小三板まつて告々々々門前ふあんの漢子まて々々々々の同伴あり
 とくく々々其相々々醜々々々人と強々々々心猶何やん喃々々咽々々
 貴客を罵りやれ宋江が云々々々人の男則我同伴あり。汝ややけ不
 小誘引せよ。小三板所々々逆れ戴宗。李達と人と引て宋江が前々々
 ぬまへ。李達ハ宋江の宋江と云々李解くと一処みまをとてとや々々申
 傍り忽ちあ眼と睜開ひく宋江と三人と白眼々々。李達問て云
 彼男ハ官人の同伴や。何とやん山神の形不似て狂々々狂々々接
 柄ありと。宋江皆一月小笑ひや。宋江が云彼ハ我ハ腹の家僕小李と
 云者あり。李解くが云彼と我々ふ連々々分ハ。や々々も妨ありと云れ

ありと他ふ召連ひり却て女人の面目と括すべし。宋江が云彼此ハ
 ぞく相貌醜々々々いんども力量人々越て武藝の達人ありと泣々々
 ぶ。李解くやと打笑ひ。則小三板命。戴宗。李達ハ盃と廻々々廻
 と勃ちむ。あ人々々々て乾々々れば。應々々々々とて李達がま々々。醉狂せん
 とと怖れあ人の志と門前ふあ。々々々。宋江が云大丈夫と強々々々
 何ぞ小杯と用人や。とて逆れ大盃ととあ々々々々々や。我々盃乾々々々々々
 李解く自らふあ。て飲とらう。樂々々己に流あり。々々々。越小宋江飲然と
 々々々筆と揮ひ。便ち樂府の詞一首と書々々々々云々
 天南地北問乾坤。何處可容狂客。借得山東烟水
 寨。來買鳳城春色。翠袖圍香。絳綃籠雪。一笑千金
 值。神仙體態。薄倖如何消得。想蘆花灘頭。蓼花汀

ちや。李達見とぞ。大少怒り。忽ち斧を揮て揚太尉を斃す。揚
 太尉肝を喰ひ。ここのけあし。奔走を戴宗。あふ李達と搦く。住人と
 せし。うた。李達。虎のどく。吼て。門内。不程。ひ入。花炮の火をみて。此。所。に
 放ち。うれば。李。勝。く。が。家。忽ち。火。起。て。黒。煙。出。ち。れ。天。少。冲。る。宋。の。軍。進。こ。し。て
 又。く。門。外。少。走。り。公。事。達。と。引。て。共。小。城。外。少。逃。ぬ。ん。と。し。くれ。れ。李。達
 大。少。呼。と。ら。く。檀。小。御。街。の。辺。少。攻。て。お。左。右。を。拂。つ。く。在。ひ。し。う。べ。恐。ろ。く。と
 城。門。と。圍。され。脱。走。難。う。し。ん。と。や。思。ひ。し。う。ん。戴。宗。逃。れ。を。あ。せ。く。李。達。と
 助け。し。ぬ。宋。の。軍。進。こ。し。て。飛。が。て。く。城。外。少。走。ぬ。く。し。此。時。帝。ハ。火。の。起。り
 と。と。見。る。ひ。即。心。と。馳。り。し。め。ら。し。ぬ。あ。ぞ。還。幸。遊。し。し。う。隣。家。ど。も。ハ
 奔。馬。足。難。ぬ。ま。く。と。騾。鈴。し。水。桶。借。子。あ。く。に。提。げ。て。火。と。扱。え。ん。と
 跑。來。り。の。く。く。如。小。太。尉。高。俵。ハ。城。内。と。巡。見。し。て。ち。ろ。ろ。ぐ。は。車。と。圍。く

慌て忙る。人馬と引て馳來り。李達と尋て東西少跑迴る。李達は李達
 不程と得弘。史進。あ。人。不。適。遇。の。軍。器。と。奉。て。相。助。け。し。ゆ。他。が。足。幸。と。官。面
 八方へ追殺し。打あひけ。城門れ。辺。少。攻。て。し。う。べ。守。門。の。軍。士。あ。は。し。と。と。て
 城門と圍さん。とせし。如。魯。智。深。武。行。者。朱。全。劉。唐。軍。器。と。擡。て。早。く
 も。城。内。少。走。り。入。る。軍。士。あ。は。し。と。追。殺。し。李。達。あ。は。し。と。搦。ひ。ぬ。し。ゆ。揚
 百歩。ち。ろ。ろ。馳。せ。し。時。李。達。己。少。軍。器。と。引。城。外。少。打。ぬ。く。宋。の。軍。進
 ち。ろ。ろ。馳。て。途。中。に。徠。徊。し。居。ろ。ろ。如。小。梁。山。泊。より。み。人。の。猛。將。一。千
 餘。騎。と。引。て。は。夜。は。不。少。攻。り。事。ハ。宋。の。軍。進。戴。宗。三。人。不。遇。て。慌。て。限
 あ。し。今。此。軍。馬。の。如。く。所。以。向。少。宋。の。城。を。と。用。ひ。ず。し。て。山。路。を。り。し
 由。人。軍。師。是。用。必。須。獨。ひ。あ。し。と。料。り。潜。則。ち。梁。山。泊。の。五。虎。將。軍。圍。勝
 林。冲。秦。明。呼。近。の。董。平。あ。と。あ。り。し。て。は。夜。の。難。と。扱。り。せ。ろ。ろ。と。魯。智

深き八人の隊も已むらうらうら。城内も人黒旋風うらうら。彼五虎將軍の城の壕深ふると、勅へ大音聲の叫りうらうら。梁山泊の城、豪傑尽くあつた。汝も速に東岳城と献つと、降させよ。汝も引て、汝が攻と、不初べきぞ。汝も速に同じく、大音聲の叫り引て、城中ふつと、入。城戸と閉て、閉て、宋の又、命じて云、汝と李逵と、別して、無切や。汝も暫く、待ちて、李逵と、そのれ、ぬらうら。我の先法軍と引て、帰山せん。汝も、梁山泊へと、李逵の先、孫若水、行李と取、再び、東岳城と、お、破らん。と、只一人、城の、お、早くも、足と、花せ、李逵と、比、上、湯、倒し。我、宋、改、命と、足下と、待、間、先、想と、息、あ、その、れ、ぬらうら。と、逃、引、て、馳、うら。

了得の李逵、急ぎに投らる。一言の返、あも及ぶ、只、お、行、李、達、何、ゆ、人、逃、き、と、思、あ、ね、だ、天、下、弟、一、の、相、撲、の、名、人、あ、時、李、逵、と、投、う、人、李、逵、常、以、逸、青、と、比、さ、う、之、進、む、若、大、軍、後、と、慕、う、て、追、ま、ら、ぬ、若、大、軍、一、足、も、お、進、む、と、陳、留、縣、の、汝、と、引、て、追、蒐、う、ら、う、ら、竟、お、進、上、ず、大、大、駭、動、し、大、尉、又、軍、を、引、て、追、蒐、う、ら、う、ら、彼、揚、太、尉、の、命、と、取、逃、回、り、し、大、尉、畧、病、と、慕、て、ま、ど、使、う、べ、と、城、中、の、傷、お、一、千、餘、人、と、死、し、う、ら、大、尉、の、樞、密、院、の、童、貫、と、共、お、茶、太、師、が、館、ふ、り、て、茶、系、ふ、け、事、と、告、げ、せ、大、尉、の、奏、聞、と、逃、て、梁、山、泊、と、攻、べ、し、と、汝、を、去、り、し、李、逵、の、逸、青、お、随、つ、て、忙、り、一、朝、の、家、と、傳、へ



丁部八千



李連汝が李獅を
音樓を崩す

李連汝が李獅を音樓を崩す

暫く歇居るる処ふまの秋太公李達と見えと大少尋るるけ人の相貌も
兇悪あり必定尋常の人ふありとて則ち惡き小對して事達ごと
と問るるへ彼人の定めり及生あむるを人何由お貌兇悪ありと尋らる
云彼人の相貌醜しとていども及徳を及及任あり太公必む怖るるふ
あられ秋太公これとせめて忽ち地上に跳き清徳の及任り肯て我と
救ひ多るご一家の獨何事うまのあつんと再三懇懇ふ申すは

○黒旋風喬く鬼と捉

秋太公の言と聞て李達ハ呵くと打咄い我太公と救さんと云易し
先速ふそとを尋るる人秋太公云我眷属は百餘人ありといふ
骨肉の親とてん只まの人の女兒と持るるが今年二十餘年しとて客
儀も醜く及びども半半以ふ不凶邪祟ふ著つて程くくちなり

只房間の裏ふまの朝夕の飲食も房間の外ふ出討吃ふとあり
人あつてあつと時ハ石瓦を打出て人を破る傷
是れ小傷と被る者あり毎夜祈禱とありこれども更に
そとあつて形々及生と救ひ多人事達此とて同じ云うる我
これ蕪州羅真人の才ありて雲ふ坐り香に及り神通最
度大なり中鬼と捉らるる我専門とする所あり今宵我鬼と
捉へてその福を除くべき間は一徳一羊と殺して神持ふあり人
太公云花羊牛馬の類ハ我家に極く多し何ぞ作らや諸人とて
此れ精羊と殺し神持とらるる李達これとて云我今宵三
更の時ふ鬼と捉ふべき間を内酒肴と佃人我ふと人太公が酒
酒肴と進せんと是又易し若符紙等入用ありこれとも進すべし

李逵が云我法ハ符と用ふがど兒女延の工ハあハ唯房間の内
 に入り鬼と捉ふの事あり悪者ありと聞て暗に一矢を燈く李
 逵故々執る酒と供へて非けふ犯り又香と拵つて洋とあり燈
 彼格羊とみく擲ふこれと吃ひ別ち悪者み對して云く人足下も
 格羊を用ひて一盃めり人ヤ悪者ハ申に冷笑ひ只黙然とて居
 る。李逵又酒とみく十餘碗酌乾其外者等一点も刺さば吃ひ
 くれバ狄太公ハ光景とてとて大不昂れいつ格凡人不あはばと低言り
 李逵又太公對して云我々酒も食も飽くれれば鬼と
 捉へん息女の房間へ誘引し人太公が云女兒が房間の内より石瓦
 を打ちまふ周家家の男女尽く思て。房間の四ふ近くある燈
 乃士法カとつて自ら入る人李逵これと聞て冷笑ひ己小かくのどく

我づづろろ房間の内に入り火把と用ふく人とて彼二の斧
 と左右のふ小提家僕ふ出把と揮せぬその房間の辺ふつて
 の肉とぎく人々の傷ふ燈の光り有て一人の漢子一人の女と一処
 あり。何やん人喃々咄々と流活する夢同へうが李逵大不吼つて
 入。汝も人の何奴あねば仲間人と嚇しめくや。汝も此の白状せむべ
 今一命と害すべし。彼漢子李逵が兇相とて人々勿ち膽を潰し
 逃かんとせし。処ふ李逵右の手は斧と揮て砍られ彼漢子逃に
 と破れし。柳とろろ。女兒大不驚く。床の下に逃入んとせし。時李逵の
 くむこれと湯俵し。大言ぞ罵つて云我今殺せし漢子の汝が
 誰あるぞ。早く実情とやせろ。一句あても詐らば汝も傷ふ殺すべし。
 彼女揮ひ慄ひて云く人。彼ハ我が親情と通ぐくる夫王小二とや志之

り遠又問て云汝者不孝間の内より投せしる石瓦の何ものや
得らるや。女兒が云我家の後門の介人家を此空地に廢せしる
石瓦極めて多し。昨夜三更少頃人皆熟し。後相匙をのりし
の頃と開き則ち彼漢子とあはして石瓦と拾りし。汝者不孝の内は夫と
床の下の花に籠りて人を見んとする時、我夫と共に石瓦と打ち
て人と傷つけし。母に父母の只我を苦しめんとし、常は祈禱
せし。守として家内此事を知しし。老一人もなき。けは一家の男女
を嚇惶し。石間の扉ふある者あはざる。ゆに檀ふ樂し。ひねりし。ふ
るを我と焼く。まは遠これと聞くと怒り。汝がどれ不孝不順の
婦と助けし。何の用や。中らんとて又斧と揮て女兒を斃殺し。
投て二のそと投て。石間の扉ふなき。大音おほひつ。云我も人化

鬼と扱へ殺し。けしと見よ。地上に投下すれば。一家の男女
てし。これあはんとて大騒ぎする。秋太公夫妻、女兒を泣と見し。
涙を流し、泣き流し。彼漢子が首へ帷あはふやと云。あはを
相えれ。激怒する者あはざらん。処を内より人か云。うんあはを
正し。東村の石精王小二と云者あり。李達お笑つて云。汝頗る眼力
あり。我女兒は漢子がと問えれば。お情を通下し。夫王小二と云者
あり。と告ぐ。我を殺し。太公涙と酒で云。王小二の殺し。ま
は我女兒と焼く。まはあは。お情を。いんふ。乃士何有。女兒を殺
て。悲しと受し。あは。李達大罵りて云。汝思する。老翁。不孝の
子と惜んで。我を苦しめ。太公以て不れあり。我明日汝と説話せん。今月
先駈ん。て。魚。こせに。堂。入。て。睡。り。る。翌日。李達。秋太公。不。對。て。

李逵是と聞て兩眼と睜開き、二の斧と擧て走らぬ宋江に攻て
 蒐る。宋江が左右の國勝、林冲、秦明、呼延灼、董平、あめ虎將軍、はと
 列ね居しうらるが、あに李逵と揮く斧と奪ひる。遂に堂下に拖
 下も。宋江忿然として大に怒る。李逵何ぞとあぐ元惡とあはれやの
 我小過あはべ汝先是と汝也。李逵怒りて逼て。まど夢とあはれと
 ざうしうば。惡青とぞあぐ。云。李逵細小告あせをせし人。同。宋江あれ
 と聞多人。李逵向小東京城の介然。縁音よう。絶如て。宋江様と打
 破しんと跑行し。殺る。李逵のお僕の子と以る。李逵と踢倒し。
 遂に引て。四柳村あむ。秋冬公が鉄めて。李逵男女多人と殺し。その
 後。荆門張の辺ふ。如く天色昏し。人。劉太公が鉄に一宿せし。処ふ。太
 公夫婦。後夜。哭きうらる。人の。む。殺る。李逵。その。人。と問うれば。太公が云。三日

以若十八歳ふある女兒と梁山泊の守の孫ふ一人の。後生と引來
 て奪ひ去。夫婦あはれと悲しんで。後夜。泣く。うらる。うらる。
 間。李逵是と信じて。宋君と恨し。又。孫再。これと論じて。宋君
 ふあひて。うらる。に不仁あると。あはれと。あはれと。恨し。うらる。と。あはれと
 制し。これども。李逵あはれと。笑入。宋君。身系に。あひて。さう。李逵
 師く。小童。うらる。は。あはれと。何ぞ。事。あはれと。んや。と。唯。今の。や
 十。多。不。傍。の。ぬ。宋江が云。かくの。で。れ。し。我。あに。是。と。あはれと。んや。と。未
 云も。終。うらる。が。うらる。李逵。高。声。あ。あ。うらる。云。我。常。に。宋江。の。汝。の。士
 との。思。ひ。うらる。に。誰。う。徹。人。を。畜。せ。に。考。うらる。人。か。あ。り。宋江。責。て
 云。宋逵。は。我。と。す。うらる。と。終。うらる。と。後。孫。の。せ。よ。我。汝。れ。と。共。ふ。二。三。千
 の。人。と。引。て。山。の。回。り。うらる。と。下。の。人。あ。はれ。と。あはれ。と。あはれ。と。何。の。途

あつゝ劉太公が鉢ふりんや。汝も信ぜらんば。我房間の内と體
 又よ。李逵が云。汝めくのどけん。是のしと云や。今山陣小左共あり。
 却て汝が手下ありん。いづんど。女兒と名さざらんや。我昔日の汝
 がまゝと貪りし。とを。弱ひらうふ。豈料らんや。汝のゆゑは。交
 と貪るの徒あり。汝昔日。圖娑惜と養ひて。後己にあまを。おろし。
 け度まゝ。東系にあひて。李陽と名ひ。二夜つけ。襦が。あり
 び。いづれん。都て色慾より。起る。あり。汝もや。劉太公が。女兒を
 再び劉太公に。還せ。汝ら。我尚ある。汝と免さん。も。ま。女兒を。固
 さまん。ば。我今。汝を。害すべし。宋江が。云。汝先。種ぐ。と。あり。我。汝と
 共。劉太公が。家。小。り。劉太公。不。對。面。し。そ。と。あ。と。事。を。ら。め。お
 正すべし。の。我が。奪ひ。ら。れ。極。り。あ。は。我。汝が。斧。と。あ。を。り。あ。

我奪ひらるに。あ。ず。が。汝。か。の。ど。け。ん。を。れ。必。び。罪。と。免。す。は。ら。ぬ。
 李逵が。云。汝。を。劉太公が。女兒。と。奪。ひ。ず。ん。ば。我。以。て。汝。を。あ。ま。を。す。
 宋江が。云。汝。必。び。そ。の。ま。ま。と。差。ふ。て。あ。り。れ。汝。既。成。都。て。何。人。あ。り。ぞ。家
 今。汝。と。燈。文。と。取。替。え。ん。と。て。ぬ。て。鉄。面。孔。目。裴。宣。小。傘。と。て。二。通。り
 燈。文。と。書。し。め。各。判。と。居。り。互。ひ。小。兒。と。名。交。し。ぬ。李。逵。泣。哭。つ。て。云
 う。う。ん。劉太公が。云。一。人。の。後。生。の。切。葉。進。に。疑。ひ。あ。り。葉。を。と。あ。れ
 と。聞。て。云。我。も。汝。と。共。ふ。劉太公が。家。不。死。て。実。吾。と。正。さん。ど。汝。先
 焦。燥。と。あ。り。れ。李。逵。が。云。我。も。亦。汝。と。伴。り。で。動。ぶ。ま。や。彼。後。生。も。汝。も
 極。り。あ。は。葉。大。人。も。も。せ。よ。且。大。人。も。も。あ。れ。我。此。斧。と。め。り。既
 と。砍。断。す。葉。進。が。云。彼。後。生。我。も。極。り。あ。は。汝。が。の。ま。に。け。り。す。べし。
 各。々。も。寛。あ。り。ぬ。我。葉。も。汝。も。よ。う。ん。は。何。れ。汝。も。疑。ひ。と。せ。び。べ。き

間汝燕青と共ふ先の如く我輩が来ると待べし。李逵が云我れか
 こそ思ひつとて則ち燕青と再び劉太公が館に馳行すれば太公近へ
 問うらん李逵は我れ女児がこゝに居て還しや。李逵が云宋江の自
 まつと太公の對面し。事の實否と正さんと欲ま今来る宋江の自
 宋江の如くは女児と早速還さるべき間太公夫婦毎人及はる事
 彼と見よ。宋江の自來りたる宋江の如くは女児も惶む。宋江の自
 不存ありと云うるふぞ太公惶む。妻も泣くはとを中々。宋江の
 宋江の果していつらん。次巻不明あり。

新編水滸畫傳卷之五十九

